



しつけは押しつけから始まる 躰で身を美しくしましょう

江戸時代の商人の子育ての考え方

“三つ心、六つ躰、九つ言葉、十二文、十五理で末決まる”



<解説>

三つ心 (みっつこころ) とは、3歳までに子供たちの人格(心)は決まってしまうから十分に愛情を注いで、人に思いやりのある子に育てなさい。

六つ躰 (むっつしつけ) とは、6歳までに挨拶の仕方や箸の持ち方から始まって身だしなみ等の躰を済ませておきなさい。

九つ言葉 (ここのつことば) とは、9歳までにどんな人にも失礼でない言葉遣いができるようにしておきなさい。

十二文 (じゅうにふみ) とは、12歳までに文字を使えるようにしておきなさい。

※今皆さんが学んでいる簿記の仕事も、このころから任せられていたところもあったようです。

十五理 (じゅうごことわり) とは、15歳までに世の中の仕組みや意味などを理解しておきなさい。

これは江戸時代に子育ての基本となった考え方です。1番目のポイントは、心・躰・言葉・文・理の順序で育てていくということ。まずは自分の心身から躰を受け、それから学力をつけ、社会に出ていく順序です。江戸時代の商人はまず自分の子供に心や身を美しくするしつけから始めています。2番目のポイントは、幼い子供は無知のため自分で考えて行動することができません。そのため、親が社会に出るために必要なことを押しつけることから始めています。もちろん押しつけられるばかりでは自立できませんから自立できるように、徐々に自分の身になっていくよう吸収していくのです。

今とは時代の違いもあり、現代の教育にあてはまらない部分もあるかもしれませんが、江戸時代の教育から学ぶべきことは多くあります。みなさんも日頃から教員や保護者から気に入らないことを言われることがあるかも知れませんが、これも大半がしつけであると思われれます。言われる側もつらいでしょうが、実はしつけをする側もそれ以上につらく苦しいのです。その裏側には愛情があることをみなさんには知っておいて欲しい。

1 学期前半を振り返ろう

6月に入り、1学期も後半戦です。1年生ならば「そろそろ学校にも慣れましたか？」の言葉でしょうが、2年生には「学校に慣れ過ぎてませんか？」と問いかけます。学校生活には適度の緊張感が必要です。6月はいよいよ1級の検定にチャレンジします。ここで今一度気を引き締めて、自分を奮い立たせましょう。

ここで、昨年の欠席と遅刻、携帯電話指導件数のデータを掲載しておきます。これは個人の意識の問題かもしれませんが“チーム2年生”の問題として、みんなでこの数を減らしていきませんか。



欠席遅刻状況 (昨年との比較)

	欠 席		遅 刻		35分遅刻	
	H28	H29	H28	H29	H28	H29
4月	5	32	0	15	0	20
5月	34	63	12	27	3	21
6月	44		13		5	
7月	21		6		5	



携帯指導件数

	4月	5月	6月	7月
H28	2件	2件	4件	2件
H29	0件	3件		

携帯電話の使い方の問題でしょうか？使用禁止のルールがあるのを知っているにも関わらず、平気で使用する行動には人として心が痛みます。

6月の学校行事

1	木	全校朝礼・頭髪服装指導	16	金		
2	金		17	土		
3	土		18	日	全商珠算電卓実務検定	
4	日		19	月		
5	月	実力診断テスト	20	火		簿
6	火		21	水	弁論大会	記
7	水	インターンシップ①	22	木		補
8	木	インターンシップ②	23	金		習
9	金		24	土		
10	土	商業実務競技大会	25	日	全商簿記実務検定	
11	日		26	月	期末考査発表	
12	月		27	火		
13	火	球技大会	28	水		
14	水	卒業生の声を聴く会	29	木		
15	木		30	金		
			31	土		